

## 復興とは・・・総論的

平成24年5月4日

原町中央産婦人科医院

院長 高橋 亨 平

### 復興とは・・・総論的

南相馬市・双葉郡の市町村の復興とはなんだろうか。

各地域によって、東日本大震災・原発事故の被害は、複雑に絡み、不可能に近いと思われる地域から、復興出来る地域と様々である。しかし、避難せず、普通に生活しながら、復興した長崎、広島のことを考えると、不可能ではない。その中で、南相馬市はモザイク状に分けられ、人口も多いことから、最前線の基地としての役割は大きい。

この地域に、今一番大切なインフラは、常磐高速道路の開通であろう。現在、陸の孤島状態であり、飯館を通り福島に至る一本の道路のみで、朝夕の混雑は酷い状態にある。これが復興の妨げになっていることも確かである。高速道路の線量を下げることが、意外と簡単であり、更に、走行しても短時間の為、支障は無い。

次に、あらゆる意味で子供・妊婦を守らなければ未来は無い。そのためのきめ細かな除染、その後の管理、経済的支援、子育て支援、教育環境の充実支援等素晴らしいものにしなければならない。日本の未来を南相馬市に重ね合わせ、実証していかなければならないのである。高齢者を守る事は、皆で力を合わせ連携すれば何とかなる。しかし、南相馬市の未来がかかっている子供達の誕生は、皆で力を合わせても、どうにもならないし、どうしようもない。そのためにはあらゆる知恵、方法を駆使しなければならない。ただ、経済的に苦しいために子供は生めないという夫婦が、圧倒的に多い事だけは確かだ。だったら、子供を生んだ妊婦には、月に20万位の給料もしくは手当を1-2年間、出そうではないか。震災以前は、年間500人であったから、これを守る或いはこれ以上になるためには、年間6億-12億円かかるが、この位は、未来の為にかかるべきではないだろうか。

そして又、職場の創出も絶対に必要である。次々と去っていく企業、引き止める努力はしただろうか。職員が避難してしまったためだけだろうか。風評は無かったのだろうか。ここにも、南相馬市の未来に不安が付きまとう。

しばらくは、除染や復旧工事の産業でにぎやかになるかもしれない。しかし、その先にある復興は未知数であり、破綻が待っているのかもしれない。我々、一人一人の市民に課せられた役割は大きい。出来る事は何でもチャレンジしていこう。とにかく、行動を起こそう。そして、これまでは、国や県、市町村は必ず妨害してきたが、良く考え、平時ではない事を認識し、民の意見、レベルを尊重し協力して欲しい。そうすれば、出来ない事は何も無いのである。

日本の戦後の復興に何かヒントは無いだろうか。食料難から、農業に力を入れ、保護したのは明らかである。農業の安定から、商業、工業、娯楽へと発展し、進んだことは確かである。米国が協力的で、冷戦構造の中で日本の中小企業は成長し、大きくなっていった。明らかに、地産地消が初期の発展のキーポイントであった。その後、輸出が中心となり、発展を遂げた。

やがて、競争力をつけるため、又、人件費削減の一環として、産業用ロボットの開発で、更に、日本は世界のトップへと躍進したのである。しかし、そこに人間は存在しなかった。即ち、巧みを育ててきた人間社会も、一緒に消滅していることに気がつかなかったのである。このことが、激変する世界、物質文明を加速した。

更に、中国、ロシアの政治経済の変革が起こり、日本の産業はこぞって、海外の、安い労働力へと移行し、国内産業は空洞化、崩壊し、日本は、はりの虎となってしまったのである。産業用ロボットは諸刃の刃であった。長年かかって磨いてきた巧みの技は、ロボットに教え込んだため、あっという間に、全てのノウハウを丸ごと失ったのである。

又、商業においても、グローバル化の中で、デフレが持続し、量販店の顧客競争奪戦に商店街も巻き込まれ、破れ、消滅していった。本屋も、八百屋も、魚屋も、肉屋も、洋服屋も、街を形成していた全てが消滅し、郊外の量販店とコンビニのみとなり、終にはシャッター通りとなってしまったのである。

このことから、何を学び、これからの社会に何が必要かを、分析しなければならない。人間と出会わない社会、街、これはまともではない。スーパーへ行っても、コンビニに行っても、物を選んで買うだけで、何の会話も無い。シャッター通りは無言でいつも黙っている。年よりは無口で不器用だ。孤独死が増えることは、社会もまた、街も死んできている指標として捉えるべきであろう。

最初からやり直さなければならない。戦後の農業に代わる地産地消の産業とは何だろうか。さしあたり、エコエネルギーであることは間違いない。太陽光、風力、波力、潮力、水力、バイオマス等テーマは多岐にわたる。ソーラー、ミニ風力、燃料電池又は電池の組み合わせは直ぐに出来るが、バイオマスの利用

は多岐に亘る産業になり得る。

バイオマスとは、ある特定の時点において、存在する生物の量として表現したものであり、通常、質量或いはエネルギー量で数値化する。生物由来の資源をさし、これを用いた燃料はエコ燃料といわれている。

最近注目されている、藻類のボトリヨコックス、88-2、144、17、はエネルギー変換率が極めて高く、休耕地で栽培しても、米の3-4倍の収益になる可能性があり、南相馬での研究が必要であり、除染効果も大きいと思われる。休耕地での試験栽培、研究が、期待される。効率が最も良いバイオマスの1つとして面白い。

世界中各国で進んでおり、中国ではバイオマス発電は、現在550万 KW、2015年には1300万 KW、目標にしており、その5年以内に、3000万 KW を目指している。

さしあたり、木質バイオマスが800万 KW、メタンガス200万 KW、ゴミ焼却発電300万 KW を開発中であり、500-700カ所の関連産業を興している。

シンガポールもマレーシアも、国策産業として位置づけしている。

日本は電力会社の独占と支配が徹底しており、原子力以外に何も出来ない、させない、状態と思われる。

エネルギーも、地産地消とし、これを機会に産業革命を起こしたい。世界中のエコエネルギー研究者が集まり、実験し、実証し、企業化する街にしたい。

シャッター通りは個々の企業又は大学の研究室とし頭脳的工業団地とする。5軒に1軒ぐらいは討論の為の喫茶店、語らいの為の喫茶店、昼間からノンアルコールのバーとか、昼間からカラオケバーとか、人と出会える町にしたい。

欲張りかな。しかし、やってやれないことは何も無いのである。・・・ただ・・・お金が無いだけである。